

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 東濃地区感覚統合研究会

テーマ 感覚統合の観点を踏まえた支援とアセスメント技能を身につけ、専門的な事例検討を実施し生徒支援に活かす

取組のポイント・成果

取組の内容とポイント

学校生活の中で、児童生徒の行動で問題とされるものには、授業中の離席、姿勢の乱れ、読み書きが苦手（板書を写せない等）、手先が不器用、情緒が不安定、乱暴等がある。こうした行動は、落ち着きがない子、だらしない子、不真面目な子、雑な子等と評価され、“困った子”と見なされてしまうことが多い。しかし、困った子と言われる児童生徒は、感覚統合の観点から見ると、うまく感覚の処理ができなかったり、感覚の過敏さや鈍麻さがあったりして、本人としては“困っている”ことが多い。例えば、授業中の離席や姿勢の乱れは、自分の体の傾きや椅子の接地面を感じながら、自分の体をバランス良く保つことへの困難さからくることも考えられる。他にも、友達を叩いてしまう子は、力加減が難しいのかもしれないと考えることができる。こうした感覚統合の観点から“困っている子”の実際を理解し、正しく導くために感覚統合理論を学び、教育（遊び）に取り入れる具体的な方法を考え、児童生徒が楽しみながら自分の苦手さや困り感を克服していける支援のあり方について考えた。

アセスメント技能を身につけるために、今年度は感覚プロフィール検査についてオンライン研修に参加した。伝達講習を行い、研究会メンバーが実際に関わっている児童生徒を想定して検査を体験した。見立てと検査数値に違いがないか比較するなど、エビデンスを持って支援を検討していけることを学んだ。

◆アセスメント技能を高める研修

- ▶ オンライン感覚プロフィール勉強会（実施方法編） アスペ・エルデの会
日時： 6月5日（土）10：00～12：00
- ▶ オンライン感覚プロフィール勉強会（解釈編） アスペ・エルデの会
日時： 6月5日（土）13：00～15：00
- ▶ オンライン日本版 Vineland-II 適応行動尺度（結果から個別支援計画を作る編） アスペ・エルデの会
日時： 6月6日（日）10：00～12：00

感覚プロフィール検査を学ぶことで、児童生徒が個々に抱えている感覚に対する過敏さや鈍麻さを数値化することができ、より具体的なアセスメントが可能となった。また、日本版 Vineland-II 適応行動尺度を学ぶことで、児童生徒に“日常生活を送る上で必要なスキル”が身についているかどうかをアセスメントできる。検査は「適応行動」ができていないかどうかで判断するため、知能検査だけではわからない『生きる力』を確認し、今後の支援に役立てることができる。実際に、少人数コミュニケーション講座を受講している生徒に対し、保護者の許可を得て検査をすることができた。

◆グループ勉強会

6月11日(金) 17:30~19:00 (WEB)

「感覚統合とは～触覚について～」

初めてのオンライン研修会であったが、自己や他者の触覚の好き嫌いを考えることから始め、無意識の触覚について学んだ。



7月 9日(金) 17:30~19:00 (WEB)

「感覚統合とは～前庭感覚・固有感覚について～」

9月10日(金) 17:30~19:00 (WEB)

「感覚の調整について」

関わっている児童生徒の事例を出しながら、感覚統合の観点について理解を深めた。



10月 8日(金) 17:30~19:00 (東濃特別支援学校)

「日本感覚統合学会研究大会 伝達講習」



11月26日(金) 17:30~19:00 (東濃特別支援学校)

「事例検討会」

事例を出していただき、感覚の困り感やそれ以外にも教育支援全体を多角的な視点で検討した。一人では気づくことができない視点を共有できた。



12月10日(金) 17:30~19:00 (東濃特別支援学校)

「感覚プロフィール検査を使ってみよう」



児童生徒が個々に抱えている感覚に対する過敏さや鈍麻さを数値化することができ、見立てと数値を比較し、捉え方の違いがないかなどを検討した。

12月27日(月) 10:00~13:00 (東濃特別支援学校)

「実際に体を動かしながら感覚統合について考えよう」



感覚を意識しながら活動することで、支援の質が向上

今後の課題

自主研修の開始時間までに業務が終わらない先生方も多く、ワークバランスの難しさを感じた。また、感覚統合理論等を難しく考えてしまうと積極的に支援に取り入れようとする気持ちが削がれるため、理論ばかりではなく、体を動かしながら参加するメンバーが楽しく学べる勉強会にしていく必要性を感じた。